

カトリック瀬戸教会広報



2019年4月号

発行 毎月第一日曜日

〒483-0983 瀬戸市苗場町 66

カトリック瀬戸教会

(0561)82-7340

カトリック瀬戸教会

検索

秋田の聖母 その4

主任司祭 ニコラス・スワイアテック

1973年6月28日に姉妹笹川の左手にそれまで経験のしたことのない鋭い痛みを伴う、普通の傷と全く違う傷が現れました。その傷はくっきりと十字架の形をし、みみずばれのように腫れあがっていました。その十字架の中央に小さな穴があき、血がにじみ出ていました。自分の罪深さを思い、キリストの十字架を思い浮かべ黙想しながら痛みを耐えようとししました。姉妹笹川は不可解な現象に、自分の罪の重さと恐ろしさを思い、畏敬の念を持ちました。そして、「信仰の弱さや感謝の薄さ」などといった一般的な反省しか思い浮かびませんでした。

姉妹笹川は手の痛みを耐えながら、それまでの試練を通して導かれた恵みを考え直すうち、み旨への信頼の念が湧き起こりました。それでも繰り返し口にのぼる祈りは「主よあわれみ給え。わが罪を赦し給え」という祈りでした。翌早朝不意にどこからか声がしました。「恐れおののくことはない。あなたの罪のみでなく、すべての人の償いのために祈ってください。今の世は忘恩と侮辱で主の聖心を傷つけております。あなたの傷よりマリア様の御手の傷は深く痛んでおります。さあ行きましょう」姉妹笹川はその声の主（以前ロザリオと一緒に唱えてくれた“私はあなたについていてあなたを守る者”）に従って聖堂に行きました。聖母像は祭壇の右手に安置されていて、姉妹笹川が祭壇の右側の方に足を向けた時、突然、木彫りのマリア像が生氣して伝えました。「わたしの娘よ、わたしの修練女よ、すべてを捨ててよく従ってくれました。耳の不自由は苦しいですか。きっと治りますよ。忍耐してください。最後の試練ですよ。手の傷

は痛みますか。人々の償いのために祈ってください。ここの一人一人がわたしのかけがえのない娘たちです。聖体奉仕会の祈りを心して祈っていますか。さあ、一緒に唱えましょう。」その祈りは司教様によって起草されたものですが、聖母は「『ご聖体のうちに在します』のことばの前に、これからは『まことに』ということばを加えなさい」と力を込めて仰せになりました。

聖体奉仕会の祈りは次のように唱えます。「御聖体のうちにまことにおられるイエスの聖心よ、一瞬の休みもなく全世界の祭壇の上にいけにえとなられ、御父を賛美し、み国が来ますようにとこい願う至聖なる聖心に心を合わせ、身も心もまったくあなたにお捧げいたします。この貧しい捧げを受け取り、御父の光栄と靈魂の救いのために、み旨のままにお使いくださいますように。幸いな御母よ、あなたの御子より引き離されることのないよう、あなたのものとしてお守りください。アーメン。」

その祈りを終えて聖母の美しい声は仰せになりました。「教皇、司教、司祭のためにたくさん祈ってください。これからもたくさん、たくさん唱えてください。」

その日、木彫りの像の小さな手のひらの中央に自分と同じ形の傷が十字に交差しており、中心の穴から血が痛々しくにじみ出ています。その御傷は5センチ×3センチで時々血が出ていました。マリア様の右手の十字の傷の刻印には重大な意味があります。

7月26日に姉妹笹川の手の激痛は前よりも更にひどくなりました。かつて彼女が耳にした守護の天使の声が心の耳に響いてきました。「その苦しみは今日で終わります。マリア様が御血を流されるのも今日で終わりますよ。マリア様の御血の思いを大切に心に刻んでください。マリア様が御血を流されたのには大事な意義があります。あなた方の回心を求め、平和を求め、神さまに対する忘恩、侮辱の償いのために流された尊い御血です。聖心の信心とともに(主の)御血の信心も大切に。すべての人たちの償いのために祈ってください。」

現代においても私たちの犯す罪と、キリストのご受難の死と、聖母の聖心の血を流す苦痛とには一つの三角形をなす関連性があります。このことは四旬節のよい黙想になるのではないのでしょうか。

つづく